

日本学術会議（第24期）第4回物性物理学・一般物理学分科会議事録

日時：令和元年12月27日（金）13:30～15:50

会場：日本学術会議5階5-C(1)

出席：川村、松尾、家、板倉、伊藤公孝、伊藤公平、植田、香取、川上、倉本、腰原、笹尾、白濱、高須、高安、瀧川、田島、常行、十倉、鳥養、西野、早川、藤澤、細越、村尾、森、吉田（27名）

参加（スカイプ）：河野、新永、笠（3名）

欠席：五神、金田、寺崎、根本、平岡、三間、村上、吉川（8名）

事務局：横田

審議・報告事項：

1. 第3回議事録の確認
2. マスタープラン2020について
3. 最近の学術会議からの提言と物一報告（案）
4. 物理教育研究分科会からの報告
5. 次期会員候補者及び連携会員候補者の推薦について
6. ヘリウム問題について
7. その他

分科会資料

資料0 議事次第

資料1：第3回物性物理学・一般物理学分科会議事録（案）

資料2-1：第24期マスタープラン策定の方針

資料2-2：SCJ シンポ 物一分野の展開と大型研究計画

資料3-1：学術体制分科会提言 2019Nov

資料3-2：物一報告叩き台案

資料4-1：物理教育フォーラム報告

資料4-2：提言（案）_物理教育

資料5：（議題5に係る資料なし）

資料6：ISSP ワークショップ「ヘリウム危機の現状と今後の課題」

資料 7 : 日本の展望 2020 に関する意見 (物理学委員長)

議事録

0. 伊藤早苗委員が令和元年 7 月に他界されたことが報告され、委員全員で黙祷を捧げた。

1. 第 24 期第 3 回分科会議事録の承認 (資料 1) (川村委員長)

第 24 期第 3 回分科会議事録が承認された。

2. マスタープラン 2020 について (資料 2-1、2-2) (川村委員長、松尾委員、森委員)

物性物理コミュニティでは、物性委員会で 2 回にわたり「物性研究の大型将来計画」の意見交換を行い、2 月 22 日の日本学術会議シンポジウム (物性物理・一般物理分野) や本委員会での検討を経てマスタープラン 2020 への応募に至ったことが川村委員長から報告された。このようなプロセスを次回以降も踏襲する提案がされた。マスタープランの提案に対し、コミュニティからの意見を反映、集約し、物一委員の意見に基づき推薦できたことは意義深い。

3. 最近の学術会議からの提言と物一報告 (案) (資料 3-1,3-2) (川村委員長、森委員、瀧川委員)

川村委員長から説明があり、意見交換を行った。物一提言 WG では、3 回の会合を持ったこと、草案を作り、委員に配布されたことが報告された。しかし、内容や問題意識の近い提言が最近学術会議の科学者委員会 学術体制分科会等から出されたこと、また、新聞や書籍にも同じような問題意識を議論した出版物が散見されるようになった状況において、今期中に無理して本分科会から提言を出すことは控えることが提案され承認された。ただ、資料 3-2 の物一報告叩き台案をベースにインフォーマルな報告文書を作成して来期に申し送り活用する余地を残す。

その上で、資料 3-2 物一報告叩き台案の内容に関する議論が行われた。

4. 物理教育研究分科会からの報告（資料 4-1, 4-2）（笹尾委員）
物理教育研究分科会から提言「物理学分野の学問分野に根ざした教育研究（DBER）の推進（資料 4-2）」の準備を進めていることが報告され、査読へ進めることが物理学委員会で承認されたことの報告があった。
5. 次期会員候補者及び連携会員候補者の推薦について（川村委員長）すでに個別に推薦依頼が届いている旨が報告された。
6. ヘリウム問題について（資料 6）（森委員）
ヘリウム不足問題に関してコミュニティとして危機感を抱き発信している。
ヘリウムのリサイクルにむけて今後の課題が紹介され、協力が要請された。
7. 「日本の展望 2020」をまとめているという紹介があった。

以上